

かのいわ日和

K a n o i w a D a y s



地域と創る

地域を守る



Vol.3
2026.3

特集

KANOIWA事務職の紹介

～医療職との

良きパートナーに～

連載企画

やまなしまちめぐり 甲州市立 勝沼図書館



特集 KANOIWA事務職の紹介

～医療職との 良きパートナーに～

Top Voice ～事務職の価値を高めるために～



財団事務局長 宮沢圭一

当グループの事務職約100名は、医療スタッフの想いと努力を経営の力へと変え、病院を動かす原動力です。現場が安心して医療に専念できる環境を整えながら、運営の改善・改革を自ら切り拓いていくことが私たちの使命だと考えています。事務部門では人材育成を経営の柱と位置づけ、学びへの投資を惜しまず“事務職の価値”を高めてきました。キャリアラダーの構築や資格取得支援、自主勉強会の開催などを通じて「医療スタッフの良きパートナー」となる人材を育成しています。一人ひとりの成長が病院の未来を担う—その想いを胸に、これからもチーム一丸となって地域医療を支え続けていきます。

事務職ってどんな仕事をしているの？



医事課は制度と患者様、他部署のハブとして現場が円滑に繋がる土台を整えています。適正な制度運用と業務効率化を通じ、職員の働きやすさと心理的安全性を大切に医療と経営の両立を支えることを心掛けています。

日下部記念病院 医事課 小俣



医師の事務作業や外来診療を効率的に支援し、誰からも頼りにされるチームを目指しています。医師が医業に専念できるように業務改善を進め徹底的にサポートしていきます！

加納岩総合病院 情報サービス課 鮎川

庶務課では、病院に出入りしている各業者との対応や勤怠管理、施設基準管理など、業務の幅は多岐にわたります。皆様の目に見えない業務も多いですが、影の立役者となれるよう心掛けています。

山梨リハビリテーション病院 庶務課 小倉



地域連携企画課では患者さまに継続性のある適切な医療や介護を提供するため、医療・介護連携の推進に注力しております。また、院内広報誌の発行や各種セミナーの開催にも参画しています。

加納岩総合病院 地域連携企画課 土屋



職員の入退職手続きや社会保険から給与計算まで労務管理全般を担っています。労働基準法等の関係法令は頻りに改正されるので、定期的な情報収集を習慣化し、法令順守や情報のアップデートを常に心掛けています。

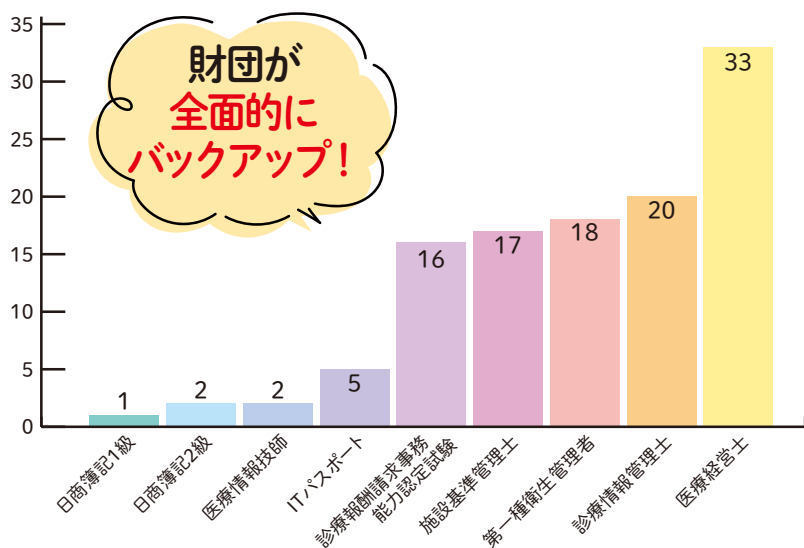
財団事務局 総務課 的場



財務課では資金管理や決算業務を行い法人全体のお金を管理しています。経営企画室は予算策定や経営分析等により、病院経営を中長期的な視点で戦略的に支えています。また法人のことや病院のことを地域の皆さまに知ってもらえるよう広報活動にも注力しています。

財団事務局 財務課・経営企画室 矢野

頼れる事務になるために…事務職が取得している資格



試験費用や登録料などは財団が全額負担し、安心して学びに挑戦できる環境づくりに努めています。現在までに11種の資格を取得し、特に医療経営士は33名、施設基準管理士は17名となっており、全国でトップクラスの取得数を誇っています。

資格取得をゴールとせず、得た知識を業務や病院運営にどう生かしていくかという視点を大切にしています。

積極的な研修会参加や勉強会実施

研修会への参加や勉強会の実施も積極的に行っています。医療情勢を理解し、外部との交流を通じて自院の現在地を認識し、病院運営に貢献できる事務職を育成しています。



たくさんの著名な方をお呼びし、研修会を行っています。



全国医療経営士実践研究大会に4回登壇。いずれの発表も受賞しています。



「加納岩医療経営研究会」では有志の事務員が集まり、様々なテーマで自主勉強会を開催しています。



外部の研究会にも積極的に参加。学びの場を拡げ、情報共有の場を大事にしています。

事務がいてくれるから安心!助かる!
そう思ってもらえる存在で在り続けるために…
加納岩事務チームはこれからも走り続けます!



「第3回 病院ファンづくり甲子園 決勝大会」に出場しました

2026年1月10日(土)、大阪府で開催された「第3回 病院ファンづくり甲子園 決勝大会」に、当院が出場いたしました。

「病院ファンづくり甲子園」は、一般社団法人 病院マーケティングサミットJAPANが主催するイベントです。全国の病院が取り組んでいる「地域との関係性づくり」や「病院の新たな価値創出」についてプレゼンテーションを行い、その熱意とアイデアを競い合います。今回は、北海道・東北から九州・沖縄まで全国6エリアの地区予選を勝ち抜いた代表と、特別枠(ワイルドカード)を含めた計8病院が決勝の舞台に立ちました。

当院は、激戦となった「関東甲信越エリア」からワイルドカード(決勝進出枠)に選出され、この決勝大会への切符を手に入れました。

■発表者：
加納岩総合病院 事務部 庶務課 野沢 麻由子

■演題名：
「クラファンで広がる“つながりの輪”
—地域医療応援団が導いた成功への軌跡—」

発表では、当院が実施したクラウドファンディングの取り組みを中心に、それが単なる資金調達にとどまらず、いかにして「地域医療応援団」という強いつながりを生み出

し、成功へと導かれたかという軌跡についてお話ししました。地域の方々に支えられて今の当院があることを、全国の医療関係者に向けて発信する貴重な機会となりました。

会場となった愛仁会看護助産専門学校(大阪府高槻市)のナイチンゲールホールには、全国から熱い志を持った医療従事者が集まりました。

決勝大会では、各病院が8分間のプレゼンテーションを行い、SDGs活動や地域イベント、福利厚生システムなど、多種多様な「ファンづくり」の事例が共有されました。優勝は岐阜県の和光会グループ様、準優勝は沖縄県のがみ西病院(社会医療法人 敬愛会)様でした。上位入賞された病院の発表は、地域を巻き込む圧倒的な熱量と工夫に満ちており、当院にとっても大きな刺激と学びになりました。

今回、全国の決勝大会という大舞台に立てたことは、日頃より当院を支えてくださる地域の皆さま、そしてクラウドファンディングを通じて応援して下さった皆さまのおかげです。

今回の大会で得た知見や、他院との交流から生まれた「共創」の精神を活かし、これからも「地域に愛される病院」「ファンになってもらえる病院」を目指して、職員一同新たな取り組みに挑戦してまいります。

8分間プレゼンテーションのスライド資料(一部)



最終プレゼンは、演者8名のうち勝ち残った3名のみが発表できるものでした。惜しくも最終プレゼンまでは残らず、発表には至りませんでした。多くの方にご協力・応援をいただきました。ありがとうございました。



当日の会場の様子。医療関係者のみならず、学生さんから企業・団体など多くの参加者がいる中で、それぞれの熱い想いや取り組みなどが語られました!

技能実習生5人の共同生活



当院では令和4年6月から技能実習生を受け入れています。現在は、ネパール出身の実習生が5名在職しています。5名は、病院から徒歩0分という好立地?の一軒家で共同生活をしています。今回は、男性5人の日常生活に密着しました。



住居について

木造の二階建て住宅に六畳程度の居室が5室あります。各実習生に一部屋を確保し、個人のプライベートな空間が確保されています。一方で台所、お風呂、トイレおよび洗面は共同で利用しています。

日常生活のスケジュール



5:00~7:00 起床

年長リーダーのアシラマンさんが一番早く起床します。当日の弁当を朝一番に準備していました。次に同期のクリスナさんが起床し、若手のポクレルさん、シングさん、バサントさんは、まだまだ寝たい様子です。



8:15 出勤

徒歩0分で通勤できることが最大の魅力です。忘れ物をしてもし休み時間に取りに帰ることができます。

17:30 帰宅

順番にシャワーに入ります。混雑具合で先に食事をとることもあります。

18:00 食事

台所が一つしかないため、3グループに分かれ食事を作ります。密着した日は、料理上手なバサントさんが鶏肉を炒め、辛目の香辛料で味付けしていました。

19:00~22:00 自由時間

各自部屋で動画を見たり、家族とオンラインで話して過ごすことが多いです。

22:00 就寝

動画に夢中になり、夜更かしすることもしばしばとのこと。

A4ホールでソフトバレー

最近の流行は、仕事後にソフトバレーをすること。病院の活動室を利用して、体を動かしてリフレッシュします。



家族のような温かい環境

ひとつ屋根の下で暮らす実習生は、ひとつの家族のような関係で暮らしているように感じました。異国の地で不安なことも全員で楽しんでいるように見えました。母国語で話すことができることは大きなメリットと感ずります。しかしながら、日本語の習得に遅れがないように私たち職員が日本語で話しかけることも重要であると感じる日々です。実習生が日本で働き続けていけるように、これからもサポートをしていきたいと振り返ることができました。ひたむきに仕事に取り組む姿勢に刺激を受け、実習生とともに職員も成長してまいります。

技能実習責任者 辻俊彦

山梨県認知症多職種連携の会

久保田正春院長、井原純平MHSW登壇

去る2025年12月8日、日本イーライリリー株式会社と甲府市医師会の共催で山梨県の認知症医療とケアをより良くするために企画された「山梨県認知症多職種連携の会」が甲府市の古名屋ホテルで開催されました。この会は、認知症の早期診断と治療開始を支える地域体制づくりを目的としたもので、当院からは院長の久保田正春（医師）と、医療福祉相談課の井原純平（精神保健福祉士 ※以後MHSW）がディスカッサントとして出席いたしました。



■認知症治療の「今」を学ぶ

冒頭では甲州リハビリテーション病院 院長/山梨県医師会 理事 佐藤吉冲医師より山梨県の医療体制についてお話がありました。プログラム前半の講演では、笛吹中央病院 院長 瀧山嘉久医師を座長に迎え、立川病院 久住呂友紀医師から認知症治療の歴史や、最新の抗アミロイドβ抗体薬といった先進的な治療法についての講演が行われました。2024年には「認知症基本法」が施行されるなど、認知症を取り巻く環境は大きく変化しています。特に、MCI（軽度認知障害）という、認知症の前段階での早期発見と適切な介入がいかに重要であるかが改めて強調されました。

■仮想症例を通じた多職種ディスカッション

後半のパネルディスカッションでは、司会に山梨大学医学部附属病院神経内科 教授 上野祐司医師を招き、ある一人の患者様がMCIから認知症を発症するまでの過程を想定した仮想症例をもとに議論が交わされました。このセッションに当院久保田医師と井原MHSWが登壇し、前半の登壇者の佐藤先生、瀧山先生、久住呂先生と共に活発な意見交換が行われました。井原MHSWからは、患者様自身が意思決定し、主体的に治療に参画することが大切であること、特に抗アミロイドβ抗体薬を用いた治療は長期間となるため、本人の治療に対する理解とモチベーション維持が重要なポイントになってくることが話されました。専門職から患者様へのファーストタッチを丁寧に行うことがいかに大切かということが話されました。認知症が進行したフェーズ（本人が受診を拒んでいる段階）では、「本人だけでなく、いかにご家族を支え、地域包括支

援センターをはじめとする地域の相談窓口と連携して、医療につなげていくか」という、福祉の専門職としての視点が提示されました。久保田医師からは、山梨県内の医療体制や、専門医とかかりつけ医がどのように連携すべきかについて、当院の役割（認知症疾患医療センター、若年性認知症相談支援センターとして、診断から治療までワンストップで支援を行っていること）を踏まえた話がありました。抗アミロイドβ抗体薬を用いた治療について、特に若年性認知症の方への治療導入には大きなメリットがあることが強調されました。

■「迷ったら、迷わず送る」関係づくり

今回の会を通じて確認されたのは、「迷ったら、迷わず専門機関へ相談・紹介できる」地域連携の重要性です。認知症は早期に発見し、治療を開始することで、その後の生活の質を大きく変えることができます。また、最新の薬物治療が終わった後も、住み慣れた地域で長く安心して生活し続けるためのフォロー体制が欠かせません。

■当院の役割

日下部記念病院は、地域の医療機関や福祉施設、行政と手を取り合い、認知症疑いの段階から、診断後の長期的なサポートまで、多職種がワンチームとなって皆様を支えてまいります。「最近、少し様子がおかしいかな？」と不安に感じる事があれば、一人で抱え込まず、まずは当院の相談窓口へお気軽にお声がけください。

認知症疾患医療センター（日下部記念病院） 0553-22-0536
山梨県若年性認知症相談支援センター 0553-22-2212

山梨リハビリテーション病院

連載企画

やまりは人

シリーズ「やまりは人」は山梨リハビリテーション病院で働くスタッフを紹介する企画です。第3弾では、看護部より一瀬看護部長をご紹介します。山リハの看護部を先導・支える看護部長が考える当院の魅力や知られざる一面についてをご紹介します。



「温かさで 人を支える」

看護部長
一瀬 貴子

Q 山梨リハビリテーション病院の看護部の特徴を教えてください。

当院は、急性期病院での治療を終えた方が住み慣れた地域やご自宅へ戻るための「架け橋」となる病院です。「もう一度、自分らしく暮らしたい」といった、お一人おひとりの大切な日常を取り戻すためのリハビリ看護を、回復期リハビリテーション看護認定看護師を中心にチームで実践しています。また、急性期病院で経験を積んできた看護師が多く在籍していることも特徴で、「確かな見守る力」があるからこそ、安心してリハビリに専念できます。急性期での経験を土台に、「生活を支えるプロ」として成長できる独自の教育体制により、一人ひとりの人生に寄り添う温かな看護を目指し、頑張っているチームです。

Q 看護部長はどんなお仕事をされていますか？

私の仕事は、スタッフが培ってきた経験を存分に発揮し、さらに成長できる教育や労働環境を整えることです。働く仲間が「この現場で、この看護ができて良かった」と誇りを持つ場所を作ること。それが、患者様へお届けするケアの質を、何よりも高めてくれると信じています。

Q 看護部長が心がけていることはありますか？

目の前の人を思いやる心があってこそ、安心や信頼が生まれると信じています。その温かさは、患者様だけでなく、共に働く仲間にも同じように注がれるべきものです。新人さんも、中堅・ベテランの方も、各々に「描きたい看護」があるはず。その思いを丁寧に聞き、その人らしい成長を支える存在でありたいと思っています。温かさで人を育て、温かさで人を支える。そんな看護部を目指しています。

Q 知られざる一面を教えてください。

食べること、そして料理を作ることが大好きです。家族の喜ぶ顔を想像しながら台所に立つ時間が元気の源になっています。相手を思って工夫を凝らす料理は、看護の仕事に通じるものがあります。お皿を前に喜ぶ孫の笑顔が、明日への一番の活力になっています。そんな等身大の「ばあば」の時間も大切にしています。



副看護部長と各階課長と一緒に



孫と趣味の料理

NEW PROJECT

医療を支える新拠点が誕生 新管理棟が完成しました

このたび、老朽化に伴い建て替え工事を進めてまいりました管理棟が、本年1月に完成し、新たな姿で運用を開始いたしました。

新管理棟には、更衣室や職員食堂、患者様に提供する食事を調理する厨房など、日々の医療を支える職員の生活・業務の拠点となる機能を備えています。

職員食堂は、明るく落ち着いた雰囲気的空間とし、業務の合間に心身をリフレッシュできる環境を整えました。また、厨房設備の充実により、衛生管理と調理体制を強化し、安全で質の高い食事の提供を行っています。

今後も、職員が安心して働ける環境づくりを通じて、患者様により良い医療とサービスを提供できるよう、病院全体の機能向上に努めてまいります。



新たに誕生した管理棟の外観



明るく落ち着いた雰囲気の職員食堂

INFORMATION

山梨リハビリテーション病院では医療用ロボットHALをはじめとするリハビリ機器を使用した治療を行っています。医療用HALとは、装着者の脳から筋肉へ送られる微弱な生体電位信号を検知して動作を補助する装着型の医療用リハビリ機器です。上手く動かせない手足に装着し、「動かそうとする脳の信号」を機器が受け取って動きをサポートします。脳や神経の回復を促す効果が期待され、脳卒中や脊髄損傷、神経や筋肉の病気などのリハビリのために使われます。



医療用HALを着用している様子

「動きたい気持ち」を力に変える不思議なロボット」

リハビリをサポートするロボット?!

当院では医療用HAL単関節タイプを導入しています。

Q.医療用HALってなに？

装着者の「脳から筋肉へ神経を通じて送られる微弱な生体電位信号」を捉え、それに応じて関節を補助し、装着者の意思に従った動作を実現するリハビリ機器です。

腕だけではなく脚にも使用できます!

お問い合わせ先
社会医療法人加納岩 外来リハ HAL担当
山梨リハビリテーション病院 TEL.0553-26-3030 (代)

作成したHALチラシ

「動きたい気持ち」を力に変える不思議なロボット」

From Soumuka

新入職員 交流会



職種を越えて 笑顔でつながる、 チーム医療の第一歩

病院や職種の枠を超えた 交流の機会に

今年度の新卒入職者を対象に、職員同士の横のつながりを深め、職場への定着を支援することを目的として、新入職員交流会を開催しました。4月の入職式では緊張した面持ちで参加していた皆さんが、半年を経て頼もしい表情へと変わり、それぞれの部署で着実に経験を積んでいる様子がうかがえました。

当日は、看護師、リハビリ職、ソーシャルワーカーなど、病院や職種の枠を超えたグループに分かれ、チームワークを活かした交流プログラムを実施しました。最初は緊張した様子も見られましたが、次第に笑顔が増え、自然と会話が弾むなど、会場は終始和やかな雰囲気になっていました。

プログラム

- STEP 1 : 自分の今の気持ちを表してみよう!
- STEP 2 : 商品券をゲット!ゲームイベント
- STEP 3 : チームでわいわいグループワーク

Projectdays!



気軽に声を掛け合える 関係づくりを目指して

参加者からは「グループで協力しながら話し合う内容が楽しかった」「それぞれの意見を大切にできた」「同期との仲がさらに深まり、他部署の職員とも交流できてうれしかった」といった声も聞かれ、新しい環境で働き始める中での不安が和らぎ、仲間意識が育まれる機会となりました。

本交流会は、業務を離れて気軽に話せる場を設けることで、職員同士が互いの顔や人となりを知り、日常業務の中でも気軽に声を掛け合える関係づくりを目指して企画しました。今後も新入職員一人ひとりが安心して職場に馴染み、長く活躍できるよう、温かく支え合える職場づくりに取り組んでいきます。

多趣味なヒト 2

「路地裏探訪」 について。



加納岩総合病院 事務部庶務課 **堀野 準一**

いい仕事をするには、プライベートが充実していることが重要だと考えています。私の数ある趣味の中からシリーズで、今回は「路地裏探訪と喫茶店めぐり」を語ります。

もともとは、早朝ランニングしていたときに偶然目に入った昭和レトロな路地裏に心魅かれたのがきっかけでした。車で通り過ぎるだけの場所も、徒歩だと意外な発見があります。路地裏には人々の生活や人間模様が表れていると思います。今まで撮った中からお気に入りをいくつか掲載します。私のInstagram「@rojiura_no_tatujin」も是非チェックしてみてください。



1



2



3



4



5



6



7



8

【撮影地と解説】①甲府・甲州夢小路。きれいな夕日。実は鉄道も好き。／②東京・荒川。下町は昭和レトロな家が並ぶ。／③大月駅近郊。渋い通りを発見。／④大阪・吉野。さすが大阪、昭和な路地裏多し。／⑤東京・中野。こういう路地裏にグッとくる。／⑥東京・大井町。飲み屋街はレトロスポットで有名。／⑦東京・高円寺。エアコンの室外機とグラフィティの組み合わせは神。／⑧北海道・小樽。レトロでお洒落なレンガ造りの建造物多し。

「喫茶店めぐり」について。

路地裏探訪しながら渋い喫茶店を発見すると、店に入ってそのお店のオリジナルコーヒーを注文。お店の雰囲気やマスターとの会話を楽しみながら、ゆっくりとコーヒーを嗜むのが最近の新たな趣味。軽食やデザートと一緒に食すことも、また良きです。



左：東京・青梅「ナミオ珈琲」。レトロな店内。スイーツも良き。／中左：東京・西荻窪「村田商會」。閉店した喫茶店の椅子やテーブル、食器も販売。／中：東京・西荻窪「炭焼珈琲ビーイン」。マスターのワンオペなので、出てくるまでゆっくり待とう。／中右：山梨・甲府「寺崎COFFEE」。2階席からの眺めが好き。／右：長野・松本「おきな堂」。老舗の洋食店+喫茶店。

「やまなし まちめぐり」

やまなしまちめぐりは日常を彩る地域の拠点を紹介する連載企画です。第2回はぶどう・ワインの産地、甲州市勝沼にある「甲州市立勝沼図書館」を紹介します。



図書館職員が自ら取材し、一から手作りで作成・開催している資料展はその世界観に引き込まれます



「カムカムクラブ」これまで参加した子供は400人以上！子供の無限の可能性を拡げている。現在は第23期生が活動中

「産地ワインのタベ」貸出カウンターで醸造家さんから話を聞きながらワインの試飲ができる



“地域に開かれた場所であり、
官民一体となって地域を盛り上げたい”

勝沼図書館は、子どもから高齢の方まで世代を超えて集い、学び、繋がることができる地域の拠点を目指しています。読書や調べものといった従来の図書館機能にとどまらず、地域の歴史や文化に触れるイベントを企画し、誰もが気軽に立ち寄れる場づくりを大切にしています。

子ども読書クラブ「カムカムクラブ」は平成15年に発足し、遊びを取り入れた読書教育を行っており、この活動が評価され「博報賞」を受賞しました。また介護施設での紙芝居や朗読会など、高齢者に懐かしさや楽しさ、笑顔を届ける活動にも取り組んでいます。地元醸造家と連携企画し、大人気イベントとなっている「産地ワインのタベ」では地域の魅力を発信しています。

山梨の素晴らしさや地元の特産物を、より多くの人に知ってもらい、誇りと愛着を持って暮らしてほしい——。勝沼図書館はそんな地域への熱い想いを大切にしながら、人と人、人と地域を繋ぐ温かな場所です。



「図書館スタッフが作成したオリジナル紙芝居」ワイナリーを取材し、子どもたちにワイン造りを分かりやすく伝えています

Message



学校司書の古屋美智留さん

「勝沼」という、日本遺産認定、世界農業遺産認定された美しく、歴史深い地域を、もっと知ってもらいたい。次世代に繋げてもらいたい。と思いながら「シビックプライドを持つ新たな利用者」を育てているところです。地域全体、また子供たちが図書館での幸せな体験を得ることによって、生涯読書ができるよう、何かあった時に図書館に足を運ぶ、誰にでも絶対にある「運命の1冊」を見つけられるよう、「図書館」がそばにある幸せを知ってもらいたいと思います。そして、資料的な立場で、地域の基幹産業を支える「場」であり、「地域」を支えられる「根」でありたいと願います。

No.2 甲州市立 勝沼図書館

開館当初から「ぶどう・ワイン」の資料収集を開始し、蔵書数・資料数は全国No.1です。徹底した資料の収集・提供・保存を行い、資料展や地域に還元するという活用方法が評価され、「Library of the Year2018」を受賞しています。



開館時間

■開館日
火～金曜日 10:00～19:00
土・日・祝日 10:00～17:00

■休館日
月曜・祝日の翌日の平日
月末整理日(月末の最終平日)



甲州市立図書館HP



加納岩グループ

■加納岩総合病院

山梨市上神内川1309 TEL:0553-22-2511



■社会復帰施設

グループホームふえふき

山梨市上神内川1321-1 TEL:0553-22-1223



■日下部記念病院

山梨市上神内川1363 TEL:0553-22-0536



■就労支援B型事業所 すずらん

山梨市上神内川1363 TEL:0553-34-5080



■山梨リハビリテーション病院

笛吹市春日居町小松855 TEL:0553-26-3030



■リハケアセンターきらり

通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション
笛吹市春日居町小松855 TEL:0553-21-6017



■甲府北口駅前 リハビリテーションクリニック

甲府市北口2-9-12 TEL:055-242-6001



■医療法人 千歳会 ケアホーム花菱

南アルプス市田島1105 TEL:055-280-8700



■東山梨訪問看護ステーション

山梨市上神内川1126-2 TEL:0553-22-8894



■社会医療法人 加納岩

山梨市上神内川1309 TEL:0553-39-9720

